

2020年1月6日

2020年、新年に想う -未来をつくるのびやかな場所を目指して-

九州工業大学学長 尾家祐二

“未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」”

新年おめでとうございます。

昨年も、多くの皆様に、本学の教育研究活動にご理解、ご協力並びにご支援頂きました。誠にありがとうございました。

さて、昨年の12月にローマ教皇フランシスコが来日され、長崎、広島を訪問し、「人の心にあるもっとも深い望みの一つは、平和と安定への望みです」と述べ、「信頼関係と相互の発展とを確かなものとするための構造を作り上げ、状況に対応できる指導者たちの協力を得ることが、きわめて重要です」と訴えました。400年以上前に遡れば、日本から、1582年（天正10年）に4名の少年が2年余りの歳月をかけヨーロッパへ渡り、各地を歴訪しました。彼らは、天正遣欧少年使節と呼ばれ、九州にはゆかりの深い人たちです。ローマでは、ローマ教皇グレゴリウス13世に謁見しています（若葉みどり著「クアトロ・ラガッツィ-天正少年使節と世界帝国」（集英社文庫））。使節が帰国したのは1590年（天正18年）、出帆する際は織田信長が理解者でしたが、帰国した時には豊臣秀吉が天下を治め、宣教師追放令を出すなど、状況は激しく変化してしまっていました。少年たちは、多くのことを学び、活版印刷機も持ち帰ったようですが、残念ながら当時の日本ではそれらを活かすきれないどころか、数奇な運命を辿ることになります。昔も今も、人の思い、技術などが活かされるためには、それらを活かす制度、組織、文化を備えた社会が必要になります。

次に、今について。今年には2020年、オリンピック開催年であり、閏年です。今、用いている太陽暦中のグレゴリオ暦は、まさに、天正遣欧少年使節が謁見したローマ教皇グレゴリウス13世が制定した暦です。そして、日本がこれを採用したのが、1873年（明治6年）です。まだ150年も経っていません。明治政府が、太陽暦を採用する背景等についてはドナルド・キーン著「日本語の美」（中公文庫）の中で紹介されています。太陰暦は、月の満ち欠けに基づいて一月を定め、太陽の運行に基づいて一年を定めていたため、「5年に2度の割合で一年を13月とし」ており、閏月がありました。「明治の為政者が改暦という方針に踏み切った理由は、明治になって年俸制から月給制に変わったからで、旧暦に従うと明治6年は13か月あって月給を13回払わなければならないと気が付いて、あわてて12か月しかない太陽暦に切り替えたようである」と紹介されています。大きな影響を与える決定に、意外な背景があります。決断

に至る過程はともかくとして、その決断によって、現在では世界の多くの国の人々と暦を共有することができ、今日の私達はその利便性を享受しています。

さらには、これから 10 年先の 2030 年以降についてです。日本も加盟している OECD（経済協力開発機構）では、2015 年から Education 2030 プロジェクトが進められています。「2018 年に学校に入る子供は、2030 年には成人として社会に出ていく」とき「現時点では存在していない仕事に就いたり、開発されていない技術を使ったり、現時点では想定されていない課題を解決すること」が必要になります。そして、学校は子供たちがそれらに対応できるように準備をすることを可能にしなければなりません。「そうすることは、子供達が機会をつかみ、解決策を見つけるために果たすべき、私たちの共同責任」です。現在では、「VUCA」（不安定 (Volatility)、不確実 (Uncertainty)、複雑 (Complexity)、曖昧 (Ambiguity)) として特徴づけられています。そのような中、「私たちの社会を変革し、私たちの未来を作り上げていくためのコンピテンシー（能力）」、つまり「変革を起こす力のあるコンピテンシー」として、次の 3 つをあげています。

- ・ 新たな価値を創造する力
- ・ 対立やジレンマを克服する力
- ・ 責任ある行動をとる力

若い世代への期待が高まりますが、彼らは、「対立やジレンマ」が生じることを覚悟し、それを「克服」しなくてはなりません。しなやかに、したたかに生きていくすべが必要になります。成果や成長等を求めることを急ぎすぎないバランス感覚が必要になります。

また、責任を全うしようとする日々の営みの中で、すべてうまくいくわけでもありません。学習し育つ環境は、のびやかで、しなやかさを備え、間違いや失敗を許容するものでなくてはなりません。自らを厳しく律する詩を書かれていた茨城のり子さんの著「詩のこころを読む」（岩波ジュニア新書）では、岸田衿子詩集「あかるい日の歌」の中から「くるあさごとに」という次の詩を紹介しています。

くるあさごとに  
くるくるしごと  
くるまはぐるま  
くるわばくるえ

うまくいかない時、リズムカルなこの詩でも口ずさみ、ほっと一息ついたり、エネルギーをもらったりすることも必要でしょう。

本学は、私たちの未来をつくるための知恵と人が集まり、育つ、のびやかなでしなやかな場所でありたいと願っています。皆様方にとりまして、本年が多くの良い機会に恵まれる年となりますことを祈念し、引き続き本学の活動に皆様のお力添えをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。